

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	通所支援ベルテール印西牧の原園		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 38
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 2日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自立に向けて、児童一人ひとりの発達段階や特性をアセスメントし「できた」という達成感を得やすいスモールステップでの個別課題を設定している。	日々のプログラムの中でバランスよく組み合わせ、児童の「できた」という達成感を得やすい個別課題を設定し取り組んでいる。 ・ライフスキルトレーニング ・運動療育 ・ハンドベル ほか	個別課題で「できた」を積み重ね、自信をつけたスキルを少人数の集団活動で実践・応用させることで、無理なく社会性を広げていく体制を整えていく。
2	多様な世代や他事業所と触れ合う機会を設けている。	・多世代が触れ合うことで、自然と思いやりの心や相手に合わせたコミュニケーションを学ぶ貴重な機会となっている。 ・放デイ事業所とのスポーツ交流では普段とは異なるお友だちとのチームプレーを通じて、ルールを守る大切さや、協力して目標達成する喜びを体験できる環境を整えている。	・交流会を実施して終わりにするのではなく、事前の準備や事後の振り返りワークを強化し、「何を感じたか」を言語化・視覚化するサポートを充実させます。 ・地域全体で児童を見守り、育むネットワークに担えるよう、交流頻度やプログラムの質を向上していく。
3	商業施設内という特性を活かし社会学習や近隣の緑豊かな広場で屋外活動を取り入れている。	・買い物学習や公共のマナーの習得など、実生活に直結した社会経験を積み場が身近にあります。	・環境に通じた「自己選択」の促進。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	商業施設内のテナントという構造上、天井が高く「声が響きやすい」傾向がある。聴覚過敏のある児童の負担になったり、活動への集中を妨げることがある。	オープンスペース主体のレイアウトであるため、音を遮断する仕切りが少なく、複数の活動が重なると音の干渉が発生しやすい状況にあります。	・声のボリュームを視覚的に示すインジケーターを活用し状況に応じた環境づくりをしている。 ・静かに過ごしたいグループと活発に動きたい外グループに分け誰もが穏やかに過ごせる環境をつくります。 ・感覚過敏がある児童の配慮としてイヤーマフの活用をしている。
2			
3			